

令和5年度 学校評価総括表

阿波市立伊沢小学校

1 学校の教育目標 「知・徳・体の調和を図り、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」 ～「いさわ」のよさを生かした教育の創造～

2 本年度の重点目標

- (1)交通安全、生活安全、災害安全に徹底して取り組み、児童が安全・安心に学校生活を過ごせる環境作りと教職員の危機管理意識の向上に努める。
- (2)タブレット端末をはじめ、学校内外のあらゆる教育資源を活用し、児童の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する。
- (3)本校「5つのきまり」を行動目標とし、教職員で効果的な支援方法を共有しながら、児童の望ましい行動を増やしていく取り組みを充実させていく。
- (4)教職員の意識改革をはかり、学校行事や校務内容の精選、ICT機器の効果的な活用をととして、教職員の業務改善を推進する。

3 本年度の「育てたい子どもの姿」

- (1)自ら学び、考え、自分のよさを伸ばす子ども (2)自分も友達も大切にする子ども (3)心も体もたくましい子ども

4 総括表

領域	評価項目	評価の観点	自己評価 考察(成果と課題)		次年度への改善点等	学校関係者評価	
				評価			
学校経営	経営方針	学校経営方針の周知	年度始めに、学校長から出された経営方針を職員で周知するとともに、学校だよりや学年通信で取組を知らせよう努めた。自己評価は昨年度より10%以上上昇し、保護者評価も83%以上と高いので、今後も引き続き分かりやすく伝える心がけていく。	A	PTA役員会や懇談会等の機会に説明するだけでなく、学校だよりやホームページを活用し、周知を図る。	A	
	開かれた学校	保護者・地域への情報発信・連携	学年・学校の取組や連絡事項については、懇談や通信、ホームページ・保護者向けメールを活用してこまめに伝えるようにした。自己評価は80%と昨年度同様高く、保護者評価も同様には83%となっているので、よく分かる情報発信となるよう工夫していきたい。	B	オンラインでの情報発信の工夫、学年だより、メール連絡を駆使し児童の活動の様子を伝える回数を増やす。	A	
	学級経営	一人一人を大切にす る学級経営の実践	「学校に行くのは楽しい」「友達に会うのは楽しい」と答えた児童はそれぞれ89%、97%であり、5%、1%と上昇し「学校は安心して生活できるところ」と答えた保護者も87%で昨年より4%上昇した。さらに職員間で連携をとりつつ児童が安心して生活できるよう努めていく。	A	児童の実態把握に努め、職員間で常に共通理解を図りながら、組織全体で児童支援に取り組む。	B	
	教職員の資質向上	授業力・組織力の向上	「授業がよく分かる」の児童評価は84%、保護者評価は88%となっている。職員の自己評価は80%である。昨年度に引き続き、ICTを活用した授業が展開できたことが一定の評価の一因であると考えられる。年度初めに本校の児童の課題を整理し、週1回、学力向上プリントにも取り組んできた。児童の確かな学力を向上させることができるよう、さらに職員全体の資質を上げていく必要がある。	B	学力向上実行プランの課題を解消するために、職員研修を行い資質向上を目指す。 ICTを活用した学力保障についてもさらに進めていく。	B	B
	環境整備	安全で美しい学校環境の整備	環境に関する保護者評価は83%、職員評価は86%であった。施設・設備については、定期的に安全点検を実施し修繕等を実施している。さらに点検を実施し、安全で美しい環境整備に努める。	B	設備の老朽化が進んでいるため、安全点検をこまめに実施し、危険な箇所の早期改善を図る。	B	
	業務改善	働き方改革の推進	「働き方改革」への理解・協力についての保護者評価は91%であり、実践していると答えた職員は14%上昇し89%であった。PTA活動のスリム化、欠席連絡の省力化等校内業務の見直しを行ってきたことで職員の負担軽減となってきた。今後もさらに改善し、働き方改革を推進していく。	A	常識にとらわれることなく、校内業務のスクラップ&ビルドを断行し、業務を見直し職員の勤務時間の短縮につなげる。	B	
	学力向上	基礎基本の定着 学習意欲	「授業中先生や友達の話の聞いている」と答えた児童は87%であるが、「分からないことは質問している」には77%となっている。「読書が好きだ」と答えた児童は76%であり、それぞれ昨年度と変わりがながい全体の中では、少し低い値となった。わからないことをそのままにしないことを徹底したり、市の図書館と連携し、読書に親しむ機会を増やしたりする必要がある。	B	家庭学習の習慣がついている児童は93%と高いので、学習内容が定着するよう課題を工夫する。	B	
	心の教育 (人権教育)	人権尊重精神の育成 いじめ防止	「友達に会うのは楽しい」97%、「友達を大切にしている」91%と昨年同様児童評価は高くなっている。「仲良く助け合って活動している」に対する職員評価96%、保護者評価は85%であった。また、「困ったことがあったとき、だれかに相談している」割合が82%と昨年度より8%上昇した。昨年度の結果を受け、改善に取り組んだ成果が出てきている。今後も児童のいじめやアンケート等から実態を把握し、職員間で行っている「寄り添う会」で共通理解を図りながら人権教育を確かなものにしていく。	A	いじめ防止子ども委員会の活動を活発化するとともに、アンケート等からの情報を職員間で共有し、学校全体でいじめのない学校づくりに努める。	B	

教育活動	生徒指導	望ましい生活習慣の育成	「きまりを守っている」についての児童評価は88%、保護者評価80%である。あいさつについても「きちんとしている」と答えている児童は86%と答え、職員評価も84%と昨年度より上昇した。また、「周りのためになる活動を進んでいる」でも、職員評価84%と上昇した。一方、保護者評価で下がったのが「ふれあいや対話をもつようにしている」で83%である。タブレットなど動画視聴の時間が増え、インターネットの利用時間も長くなる傾向にあることから、家庭での対話も減ってきているのが心配である。	B	B	昨年度作成した、「タブレットパソコンのよき使い手となるための15の約束」を遵守し、情報モラル教育や消費者教育について尚一層充実させていく必要がある。	B	B
	健康・体力づくり	基本的な生活習慣の確立	体育の時間以外にも外遊びをしている児童が多く、体力向上につながっていると思われる。一方、インターネット利用が増えている傾向があり、SNS上のトラブルやゲーム依存、それに伴う睡眠不足が心配である。	B		マラソンやなわとびカードなどを工夫し、児童の運動意欲を高める。また、懇談などの機会に望ましい生活習慣について保護者に伝えていく。	B	
	家庭・地域教育	家庭・地域教育力の向上	「学校教育活動やPTA活動に参加・協力してるか」に対して保護者評価は74%と低いが、職員評価は88%と高くなっている。コロナ禍が明け、学校行事がすべて開催でき、その参加率が非常に高く、交通安全指導にも積極的に協力し児童の安全を見守ってくれている。そのため職員は地域の教育力が高いと認識している。	B		保護者や地域と課題を共有する場を設定し、協力しながら課題解決に取り組んでいく。	B	

5 学校運営協議会委員からのご意見

- ・スクールカウンセラーの保護者の活用が進んでいるようだが、今後も続けてほしい。
- ・学校では、対応できない家庭が増えてきている。教員も困ったときには、スクールカウンセラーを活用すればいい。
- ・タブレットや携帯の時間が増えており、動画で子守りしている家庭がある。親の教育を進めなければいけない。
- ・子どもたちには、想像力・相手を思いやる心を育ててほしい。
- ・保護者の情報については、こども園の方が詳しいので、こども園と連携をとることも大切。
- ・幼・小・中の先生が集まって話をする機会がなくなっているのので、作った方がいい。